



入江九一（いりえ くいち）

天保8年（1837）～元治元年（1864）



人物紹介

<諱>弘致、弘毅 <字>子遠 <通称>万吉、喜一、杉蔵、九一
<変名>河島小太郎 <雅号>松白

天保8(1837)年、萩市土原ひじわらに生まれる。父は長州藩の足軽である入江嘉伝次かでんじ。5年後の天保13(1842)年に弟・靖(野村靖)が誕生。父が病身であったため、幼くして藩の小役人として仕える。

嘉永6(1853)年、福原冬嶺塾ふくぼらとうれいじゅくに入門。安政3(1856)年7月嘉伝次が死去し、九一が家督を継ぐ。翌年、江戸の長州藩邸の小役人に換わる。

安政5(1858)年、松下村塾に入塾。通った期間は江戸から一時帰国した際の1か月程度であったにも関わらず、吉田松陰は九一を「才知にあふれ、忠義の志も厚い」と高く評価した。高杉晋作・久坂玄瑞・吉田稔麿と共に「松門の四天王」と呼ばれる。

文久3(1863)年、藩命により、九一は「士 雇さむらいやとい」(武士の身分)に出世。同年、晋作の「奇兵隊」創設に加わった。

元治元(1864)年7月19日、禁門の変で重症を負い自決。享年28歳。



資料紹介 県立図書館所蔵の入江九一に関する本



生涯を簡単に紹介した本 ※ [] 内は県立図書館の請求記号

- 『月刊松下村塾Vol.5』 月刊松下村塾編集部編, 山口産業, 2005.2 [Y289/Y 86/N 4]
写真とイラストを多く使用し、入江九一とその弟・野村靖の生涯をわかりやすく紹介している。巻末に両者の生涯と長州、日本、世界の動向を対照させた年表あり。
- 『松陰先生の教育力』 広瀬豊著, マツノ書店, 2000.3 [Y289/Y 86/N 0]
昭和9(1934)年初版、昭和16(1941)年訂正版の復刻版。松下村塾塾生の吉田稔麿、入江九一、久保清太郎、楯取素彦の生涯についてまとめられている。

- 『松下村塾 近代日本を創った教育』 池田諭著, 広済堂出版, 1968 [Y372/J 8]
松下村塾にまつわる人物について略伝をまとめたもの。塾生だけでなく、塾生を指導した人物や、塾生と行動をとともにした人物についても紹介。九一については「入江杉蔵・野村靖兄弟」として弟・靖とともにp142-154に掲載。
- 『吉田松陰と松下村塾の青春 別冊歴史読本』 新人物往来社, 1989.3 [Y289/Y 86/L 9]
松下村塾の塾生について人物別に概略をまとめている。写真が多くわかりやすい。p180に松下村塾関係事件年表あり。入江九一については以下の箇所に記述あり。
p44-47 「入江九一 師と終始行動をとともにした愛弟子」
p122 入江九一の墓の写真(京都 霊山墓地)
p172 「松下村塾人物事典」入江杉蔵(九一)



史料(書簡・日記他)

- 『入江九一資料集』 入江遠編, 楽, 1994.12 [Y289/I 64]
編者は九一の孫。吉田松陰全集、久坂玄瑞全集等から、九一に関する部分を抜粋し、ほぼ年代順に掲載。書簡や日記、歌等が収録されている。解説あり。
- 『吉田松陰と塾生』 松田輝夫編著, 松陰神社, 2013.8 [Y289/Y 86/P 3]
吉田松陰全集から各塾生に関する記述を抜粋したもの。個人名の五十音順で掲載。入江九一についてはp30-39にまとめられている。巻末資料編に年表あり。
- 『追懐録 維新回顧録叢書 4』 野村靖著, マツノ書店, 1999.8 [Y289/I 64]
野村靖が記した、幕末の動乱を生き延びた靖と母・満智の記録。明治23年刊行「追懐録」の復刻。巻末に「入江子遠遺稿」として九一の詩が収録されている。

※明治維新人物調べ案内No. 37「野村靖」もあわせてご覧ください。

山口県立図書館は明治維新資料の収集に努めています

山口県立山口図書館 総合サービスグループ
TEL: 083-924-2114 (調査・相談)
FAX: 083-932-2817
ホームページ: <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/>

このほかにも関連資料がありますので、詳しくはお問い合わせください。

作成日: 令和3(2021)年3月18日